

熊本市東区健軍本町1-22
東部ハイツ105

Tel 096-285-7761
Fax 096-285-7762
E-mail:kumacsw@lime.plala.or.jp
URL: http://kumacsw.com/

発行責任者 黒田 信子
編集責任者 魚谷 康洋
発行日 2017年7月



CSWくまもと

特集

「ハンセン病にかかわること」



第
59
号

2017年度 社会福祉セミナー・定時社員総会について

去る6月24日、桜の馬場城彩苑の多目的交流施設におきまして社会福祉士セミナーと定時社員総会が開催されました。以下概要については、次の通りです(詳細につきましては、先に配布の2017年度定時社員総会資料をご参照ください)。

第1部 社会福祉セミナー

元水俣市長の吉井正澄氏を講師に招き、「水俣病と社会福祉」をテーマに吉井先生が向こうでこられた貴重な経験を講演いただきました。参加者からも感動と感謝の言葉がたくさん寄せられました。

第2部 定時社員総会

(1号議案) 2016年度事業報告

定款第4条に規定されている事業を中心として、多くの事業を実施いたしました。公益目的事業としては、①熊本県社会福祉士学会の開催(参加145名:会員120名・一般25名)、②地域公開セミナーや児童虐待の理解と対応、災害弱者への支援等、一般県民や医療・保健・福祉の関係者を対象とした社会福祉セミナーを計3回開催(参加106名:会員60名・一般46名)いたしました。熊本地震の影響もあり、昨年度と比較して大幅に減少となっています。③社会福祉よろず相談(通年)では、一人親家庭の相談支援事業を実施し、一般県民の方より5件の相談に対応させていただき、熊本地震発生後には、益城町や県身体障害者福祉センターにおいて被災者向けの総合相談を実施しております(延活動日数:119.5日、延支援者数:108名)。

次に会員状況についてですが、2017年3月末現在、正

会員数784名となり、前年同月比で34名の増加となっています。

委員会及びブロック活動報告では、趣向を凝らした動画やパワーポイントを活用して10委員会・13ブロックより報告がなされました。

(2号議案) 決算報告

各事業における収入の他、事務局運営に不要な支出を抑えたことにより黒字決算とすることができました。ご理解、ご協力いただきました会員の皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。

第3部 情報交換会

45名の参加で、名刺交換や情報交換が盛んに行われおりました。楽しく大変有意義な時間でした。

最後に、本会の目的は、社会福祉士の倫理を確立し、専門的技能を研鑽し、社会福祉士の資質と社会的地位の向上に努めるとともに、社会福祉の援助を必要とする熊本県民の生活と権利の擁護及び社会福祉の増進に寄与することです。これらを実現する為、より多くの会員の皆様に本会の活動に携わっていただけるようご協力をお願い申し上げます。



元水俣市長 吉井 正澄氏



会長 黒田 信子

「九州北部豪雨(福岡県・大分県)災害義援金」のお願い

義援金の受付方法

- (1) 銀 行 振 返 金融機関名:肥後銀行(0182) 東町団地支店(店番 134) 口座番号:普通 447686 口座名義:一般社団法人熊本県社会福祉士会
- (2) 郵 便 振 替 記号番号:17120-3527821 加入者名:一般社団法人熊本県社会福祉士会
※他行からの振込の場合 店名 七一八店(ナナイチハチ店) 口座番号 0352782
- (3) 募金箱設置 設置場所:熊本県社会福祉士会 事務局 ※月~金 9:00~17:00(土日祝を除く)
受付期間:2017年7月10日(月)~2017年10月31日(火)

皆様のご協力をお願い申し上げます。

特集 社会福祉士としてハンセン病問題にかかわること

1.日本におけるハンセン病の問題

わが国では、1931年制定の「癩予防法」および1953年に一部改訂された「らい予防法」によりハンセン病患者の「強制隔離による絶滅政策」を行ってきました。この病気が「らい菌」という非常に感染力の弱い細菌による感染症であり、1943年には「プロミン」という治療薬が発表され、多剤併用療法によって外来治療が可能となり、1960年にはWHOから勧告を受けたにもかかわらず、1996年「らい予防法の廃止に関する法律」が制定されるまで、ハンセン病患者の隔離政策を続けてきました。

その後、1998年に、ハンセン病に罹患した患者を伝染のおそれがあるとして隔離することを認めたらい予防法が日本国憲法に違反するとして、恵楓園・星塚敬愛園の入所者らが国家賠償請求訴訟を提訴し、2001年に熊本地裁は原告勝訴の判決を下したところ、国も控訴しないという異例な事態で判決が確定しました。

2.熊本県社会福祉士会の関わり

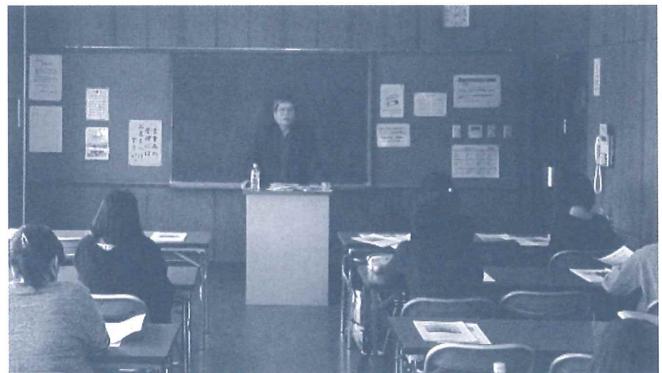
このような流れの中で、ハンセン病問題の真相究明のため、熊本県社会福祉士会も菊池恵楓園での被害状況調査に参加し、これを契機にハンセン病療養所退所者等に対する支援活動が開始されました。2003年には退所者等の支援のための「ハート相談センター」が開

設され、熊本でも相談したいという声に応えて、県士会でも支援活動に取り組むことになりました。

具体的には、①熊本市と退所者との意見交換会へ参加 ②退所者の会の例会や行事等に参加し情報交換 ③介護保険、障がい者の制度やサービス利用についての個別相談 ④成年後見制度利用の相談を受け、任意後見制度の活用などの支援 ⑤熊本市が開催する退所者の方への特別相談窓口に相談員として参加 ⑥ハート相談センターの担当者会議に参加等の活動を行っています。

3.ハンセン病についての勉強会および恵楓園見学

4月22日に行われたハンセン病勉強会では、まず、ハンセン病元患者で療養所退所者の中修一さんより講義をしていただきました。中さんは、ハンセン病患者として



ハンセン病勉強会開催の様子

ソーシャルワーカーデー開催報告

2017年度テーマ「福祉現場の醍醐味～ヒューマンサービスとしてのすばらしさ～」

熊本県では2015年度より、熊本県医療ソーシャルワーカー協会(MSW協会)、熊本県精神保健福祉士協会(PSW協会)、熊本県社会福祉士会の3団体合同で、県下の福祉系大学・高校に通う学生を対象にイベントを企画・開催しています。昨年は熊本地震の影響で開催中止となりましたが、今年は7月17日海の日に熊本県総合福祉センターにて開催され、78名の参加がありました。

本会黒田会長による「人と関わっていくことのすばら

しきを感じてほしい」との開会挨拶から始まったソーシャルワーカーデー 2017。先輩ソーシャルワーカーの実践報告は、MSW協会の園山和明氏より「災害時におけるソーシャルワーカーの役割」、PSW協会の大島高昭氏より「災害時におけるソーシャルワーカーの活動」、本会磯田千絵氏より「社会福祉士会の災害支援～アンケート結果から～」と、熊本地震におけるそれぞれの支援活動と振り返りの発表で、学生は真剣に耳を傾けていました。磯田氏は「平時から作りあげていく、

～ハンセン病問題の現実と熊本県社会福祉士会の取り組み～

療養所に入ったときのこと、療養所の暮らし、退所して地域で暮らす中で困ること、など何でもオープンに話をしてくださいました。そのなかで、中さんが語られた「せめて1960年の勧告に従って隔離政策が解かれていたら、自分たちの人生は変わっていたんだろう。子どもができ、孫の顔を見られたかもしれない…」この言葉には、胸が締め付けられる想いでした。

その後、恵楓園に移動し、施設見学を行いました。その中で、恵楓園の今までの歴史について、いろんな展示資料を前に解説が行われました。絶対隔離政策では、ハンセン病患者の方々への人権侵害として、結婚の条件としての断種や人工妊娠中絶が強いられていたそうです。資料館には、生れてくるはずの子どもの代わりに名前を付けて夫婦がかわいがったという人形も展示されていました。他に、家族に対して差別や偏見が及ぶこと



恵楓園見学会の様子

会員自ら動く会づくりが必要」と職能団体としてのあり方についても触れました。第2部のグループワーク形式の交流会では、活発に意見交換がなされました。

参加学生からは「このような機会が増えるとよい」「学校では普段学べない内容だった」「災害時支援で活躍する先輩ソーシャルワーカーが頼もしく感じた」などの感想が聞かれ、相談ブースでは、卒業後の進路についての相談を受ける場面も見られました。

を恐れ、療養所内では偽名を名乗る方が大半であるということも分かりました。療養所から出て故郷に帰らない理由には、家族に迷惑がかかることを恐れる方が多いことも一因です。2003年に起きた、県内のホテル宿泊拒否事件で寄せられた多くの誹謗中傷の手紙には、すさまじい攻撃と相手の存在そのものまで否定する人間の心の闇が露呈され、今なおこの病気に対する差別や偏見が根強いことを思い知らされました。

4.今後に向けて

元患者の方々は高齢化が進み、全国の療養所入所者の平均年齢は85歳近く、入所者数も年々減少し、現在では1500人以下となってきている状態です。幸いにも、私たちはハンセン病元患者の方から直接話を聞ける、という大変貴重で恵まれた環境にあります。このハンセン病の問題を風化させず語り継いでいくこと、またハンセン病の後遺症がありながらも、ハンセン病だったことを隠さずに老人ホームに入居したり、地域の医療機関を利用するなど、他の高齢者の方々と同じ選択肢を持ち、差別や偏見のない社会で当たり前の生活を営むことができるような支援をするために、当会では今後も勉強会と交流を続けていく予定です。



災害時支援委員会磯田千絵氏による実践報告の様子



グループワーク形式での交流会の様子

第25回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会(福島大会)参加報告

災害時支援委員会 小阪 勝己

平成29年6月3・4日にかけて、福島県のビッグパレットふくしまにおいて開催された第25回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会(福島大会)に参加、研究発表をさせていただきました。全国から約1300名の社会福祉士が参集し、「障壁をこえて～共に歩む社会福祉士」をテーマに様々な講演やシンポジウム、分科会で学びを得ていました。

私は、災害時支援委員会として今年の初めに行いました「熊本地震支援のふりかえり」調査の概要とその結果、そして、今後にどう活かすかを発表させていただきました。発表ができましたのも、災害時支援委員会の仲間はもちろん、県士会、そして、ご協力いただきました会員各位のおかげです。紙面の都合で詳細な内容をご報告できませんが、熊本に限らず各都道府県士会、そして会員がこれから取り組むべき課題の一端をお示しできたのではないかと考えております。いつか県士会会員には

内容をご報告できれば幸いです。

私事になりますが、全国大会終了後、福島県、宮城県の被災地に伺いました。6年以上が経過しても、復興はまだまだです。そして、その地域・個人の格差があると感じました。熊本はどうでしょうか。震災を過去のこととしているのでしょうか。まずは風化を防ぐこと。社会福祉士である私たちが、他人ごとにせず、我がこととして、決して風化させないという気概を持つことが大切だと感じました。

繰り返しになりますが、この貴重な経験をさせて頂きました県士会、災害時支援委員会、そして、会員の皆様に感謝申し上げます。

最後に、旅費を出してくれた嫁に…「どうもありがとう」。



福島大会発表時

荒玉・山鹿ブロック研修会報告「基礎研修受講のすすめ」

開催日時 5月31日 19:00～21:00

ブロック長 永田 恵理香

荒玉・山鹿ブロックでは、ブロック内の社会福祉士の皆さんに社会福祉士会の研修課程および、基礎研修Ⅰ～Ⅲについてより詳しく知つていただく機会を作ろうと、「基礎研修受講のすすめ」と題した研修を開催しました。本年度1回目となるブロック研修会に、30名の会員非会員の参加がありました。

はじめに、熊本県社会福祉士会研修委員会担当理事の野満博士氏より、社会福祉士及び介護福祉士法第47条の2「知識及び技術の向上に努めなければならない」という社会福祉士の責務にふれた上で、生涯学習制度があるということ、その一つとして、基礎研修があることの説明がありました。さらに、基礎研修Ⅰ～Ⅲまで受講することで、社会福祉士として共通に必要な知識・技術をふまえた実践の展開を学ぶことができるとの説明がありました。

その後、荒玉・山鹿ブロック会員で基礎研修Ⅲ受講中のお二人から、「基礎研修の受講のきっかけ」「基礎研修で辛かったこと」「よかつたこと」「今の業務にどう活かせているか」についてお話しいただきました。



特別養護老人ホーム
岱山苑 生活相談員
松森 理恵さん

休日を利用して研修に行くため業務との両立や、課題、レポートなども大変でしたが、研修の講師がいつもサポートしてくださいました。同じ研修仲間がいることで、学ぶことが楽しかったです。研修を通じて、ショートステイ利用者の記録について他の人にもわかるように意識して書くことで、利用者の申し送りが充実し、利用者の待遇がよくなることにつながることが理解できました。学んだ知識を活かし、事例研究に取り組み、社会福祉士学会で発表することができました。



住宅型有料老人ホーム
ビーラふじの香 経理事務
藤澤 史織さん

経理事務の立場で、事務業務をただこなすのではなく、利用者の様子や反応からうかがえる気付きを大切にしたいと思えたり、それを組織に伝えることで、利用者の満足度をあげていく取り組みや組織のチームアプローチができているかなどの視点をもつこと、地域のニーズにこたえられているかなどを考えていくことに気が付きました。

参加者からは、「若い人がすごく頑張っておられることが分かった」「研修受講を考えてみる」「今受講しているが、仲間がいるので乗り切っている」などの感想がありました。

最後に、ブロック長より、ブロック内で研修修了者が数名いるが、現在、研修を受けている人を身近な地域でフォローできる仕組みも作っていきたいとのお話をさせていただきました。



研修会開催時

委員会紹介

相談委員会

「お返事は、はい&イエス&喜んで！」が合言葉
活動内容 ①スクールソーシャルワーカー・キャンパスソーシャルワーカー ②ひとり親家庭支援 ③くまジョブでの生活相談 ④ハンセン病元患者支援 ⑤難病支援 ⑥グループSV研修 ⑦ホームレス支援。定例会は基本毎月第3月曜夜18:45～事務局にて。現在約30名の会員名簿作成中。新入会者熱烈歓迎！

成年後見委員会

成年後見委員会は、約130名の会員が所属し、後見活動を行っています。活動内容は、毎月第2水曜日19:00～定例会・運営委員会の実施、全会員を対象とした個別面接、全体会議・継続研修(各年1回)、定期報告書のチェック、地区別研修会、講師派遣や県内外の会議等へも参加しています。会員の繋がりを大切に活動しています。

地域包括委員会

地域包括委員会は、現在17名で活動しています。自分達を含め、地域包括支援センターに勤務し、総合相談・権利擁護業務を担う社会福祉士の知識・技術の向上を目指し『包括ネット』(研修等)を開催しており、本年は5回予定しています。地域包括支援センターに勤務する社会福祉士の皆さん、いつでも気軽に参加してください。

虐待対応委員会

現在27名で活動中です。主な活動は、県弁護士会、県司法書士会と協働する『熊本県高齢者・障害者虐待対応専門職チーム』のメンバーとしての活動となります。具体的には、虐待事案に関する市町村からの相談に対する助言や、会議への参加、研修会への講師派遣、また権利擁護に関する県主催研修の運営や講師等も行っています。

研修委員会

研修委員会は、会員の社会福祉士としての資質向上を目的とし、日本社会福祉士会の生涯研修制度を基盤に研修を開催しています。現在、基礎研修課程(基礎研修I、基礎研修II、基礎研修III)と社会福祉士実習指導者講習会を中心開催しています。研修の企画運営できる方を募集中です。

受験対策委員会

受験対策委員会は委員数12名で第3火曜日に定例会を開催しています。活動内容は介護支援専門員、社会福祉士の資格取得のための受験対策講座と模擬試験の企画、運営です。講師の先生との連絡調整等や各講師陣の講座の傍聴も出来るので自身の振り返りもできますよ。興味のある会員の方がいましたら一緒に活動してみませんか。

第三者評価委員会

社会福祉施設全般の福祉サービス向上に資することを目的とした、文字通り第三者による客観的評価を実施する職能集団です。定例会を、奇数月の第4水曜日に実施するほか、評価決定会議を随時開催しています。現在20名の会員が「児童・母子・社会的養護」「障害者・児」「高齢者」の3分野に分かれて、各々の専門性を發揮しています。会員のみなさま、評価調査者を大募集しています。我こそは!とお考えの方、私たちの仲間になってくださいませんか!!

広報委員会

主な活動は①県士会広報誌「CSWくまもと」の発行(年3回)、②会員が活躍している職場等への見学会(年1回)です。「CSWくまもと」は年3回の発行ですが、可能な限りタイムリーに熊本県社会福祉士会の活動内容や今後の予定などを掲載しています。毎月第3木曜日に定例会を行っております。広報誌づくりに興味のある方、会の活動をもっと内外にアピールしてみたいという方等のご参加をお願いいたします。

会員サービス委員会

会員サービス委員会では会員の皆様のネットワークの構築、サービス向上を目的に活動している委員会です。活動内容としては、ニーズ把握の為の調査、総会、学会時の情報交換会の運営、新入会者に対してのオリエンテーション、その他余暇活動等を企画しております。委員も4名と少ない為、ご協力して頂ける方は宜しくお願いします。

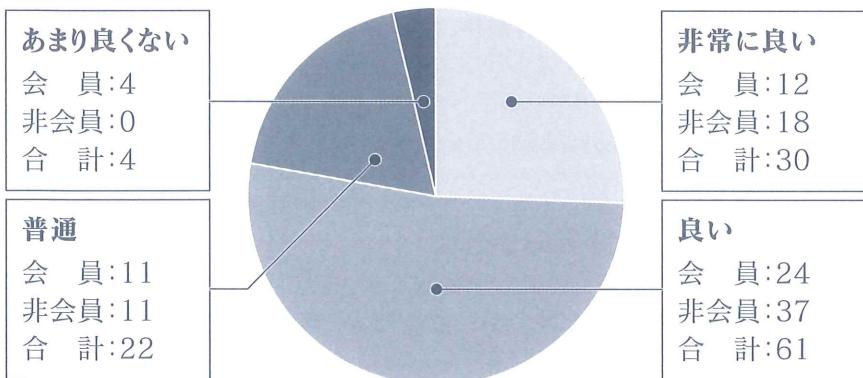
災害時支援委員会

現員19名で活動しています、一昨年度に承認された新しい委員会です。昨年は熊本地震の発生で改めてその必要性を感じられました。偶数月開催の運営委員会の他、災害対策マニュアル作成、災害支援者養成研修、九州各県との連携などの各部会を奇数月に開催しています。ぜひご参加ください。

ご協力ありがとうございました！一広報誌アンケート報告一

2016年12月、広報誌 CSWくまもとへのアンケートを実施しました。会員より51名、一般の方(非会員)より66名、計117名よりご回答をいただきました。たくさんのご意見をありがとうございました。

○総合的な内容について



- 非常に良い
- 良い
- 普通
- あまり良くない
- 良くない

全体的に好評価でしたが、よりよい広報誌にしていくために、いただいた意見や要望から改善点を検討しました。

○今後に向けて

主なご意見・ご要望	今後の改善点
ページによって文字の大きさが揃っていないので読みづらい。	各ページの文字サイズを統一し、読みやすいレイアウトにしていきます。
タイムリーな内容を掲載してほしい。	今号より「インフォメーション」のページを設け、研修予定や各委員会からのインフォメーションを掲載していきます。
各記事の文字数が多すぎるのは？	各記事の文字数をこれまでの1000字程度から400字～800字程度に削減し、その分紹介するトピックスを増やす、イラストやグラフで視覚化するなどしていきます。
熊本県社会福祉士会全体の活動の動きをもっと知りたい。	各号によって特定の話題や、委員会・地区ブロックの紹介に偏らないよう、バランスを考えた構成にしていきます。

なお、アンケートでは紙面についても従来通りカラーがよいか2色刷りもしくは白黒に変更するか、縦書き横書き、どちらが望ましいかについても意見を募りました。回答の多くは「カラー」(会員:25名、非会員:59名、合計:84名)「縦書き」(会員:28名、非会員38名、合計66名)でしたが、予算等の都合や他県士会広報を参考に今年度より、これまでのカラー印刷から1色刷りに、そして横書き、左綴じに変更いたしました。

皆様から寄せられた意見をもとに、熊本県社会福祉士会の活動をわかりやすく魅力的に発信できるよう、広報委員会の活動も充実させていきます。これからも、どうぞよろしくお願ひいたします。

くまもと 復興支援企画

Tシャツ・ポロシャツ
[色・サイズ豊富に取り揃えております]

くまもと復興支援Tシャツ&ポロシャツです。熊本地震により、九州各所で甚大な被害が出ました。これから復興に向けて「がんばろうTシャツ」で少しでも盛り上げて行きたいと思います。

被災した弊社も頑張って参ります。
尚、売上金の20%を熊本県に寄付させて頂きます。

詳しくはwebで!! <http://notebook.theshop.jp/>

製作販売／株式会社 城野印刷所 (担当:福島) E-mail fukushima@jono.co.jp TEL.096-286-3010

がんばろう!
熊本!!九州!!
そしてニッポン!!

インフォメーション

事務局よりお知らせ

●九州・沖縄ブロック研修会(宮崎県)

日時:2017年11月25日(土)午後~26日(日)午前中 場所:九州保健福祉大学(宮崎県延岡市吉野町1714-1)
※詳細は順次ホームページに掲載いたします。

●変更届ご提出のお願い

お名前・ご住所・勤務先などが変更になられた場合は、事務局までご連絡のうえ届出書をご提出ください。
届出書は、ホームページからダウンロード可能です。「入会・変更」をクリック。

2017年度 ぱあとなあ熊本 全会員個別面接会日程

成年後見委員会では、今年度も会員への支援体制の強化と不正防止、及び後見事務の質の向上を目的として、ぱあとなあ会員の全員面接会を地区ブロックごとに実施します。面接会日程・会場は以下のとおりです。

荒尾・玉名・山鹿	:8/ 6(日) 13:00~	樹心台居宅介護支援事業所
菊池・阿蘇	:8/19(土) 13:00~17:00	菊陽町中央公民館
益城・宇城	:8/25(金) 18:00~	チロアウト
八代・芦北・水俣	:8/19(土) 13:00~17:00	かんねさこ相談支援事業所
天草	:8/20(日) 13:00~16:00	天草市民会館 研修室
人吉・球磨	:8/26(土) 13:00~	人吉市東西コミュニティセンター
熊本市	:8/19(土) 午前、8/23(水) 19:00~、8/26(土) 13:00~、8/29(火) 19:00~	熊本県社会福祉士会事務局

※ぱあとなあ会員へは過日面接会のお知らせをお送りしていますのでご確認ください。

2017年度受験対策講座のご案内

経験豊富な講師陣で試験合格に向け全力でバックアップします。

【社会福祉士受験対策講座】

期日:9月3日(日)、9月10日(日)、9月24日(日)、10月1日(日)、10月8日(日)の計5回 会場:熊本学園大学

【社会福祉士模擬試験】

期日:10月22日(日) 会場:熊本学園大学



【介護支援専門員受験対策講座】

期日:8月27日(日) 会場:熊本学園大学

【介護支援専門員模擬試験】

期日:9月3日(日) 会場:熊本学園大学

詳しくは会のホームページをご覧ください。

社会福祉士実習指導者講習会

日時:10月28日(土)・29日(日) 場所:熊本学園大学 ※詳細は本会ホームページをご参照ください。

平成29年度熊本県福祉サービス第三者評価調査者養成研修のご案内

- 1)前期日程 9月25日(月)~26日(火)
- 2)後期日程 10月2日(月)、10月4日(水)、10月6日(金)

詳細につきましては、当会ホームページをご覧ください。

熊本市中央ブロック長
ブロック紹介 坂本 真奈美



熊本市中央ブロックは、熊本市中央区在住の約100名で構成されています。社会福祉士歴も第1回国家試験を受験されたという大ベテランから、今年合格されたフレッシュな方まで様々です。

現在は、西ブロック、北ブロックと合同で年2~3回の研修会・その後の名刺交換会を中心に活動しております。社会福祉士の活動範囲は幅広く、多岐にわたっており、役員会で研修内容を考えるところが一番悩ましく、かつ楽しいところです。

昨年度は、地震直後ということもあり、全員が被災者であり、被災しながらも支援者の役割をはたしている方も多く、さらに支援されている方のコーディネートをしている役員から「支援者がとても疲弊している。今後、支援者をどのように支援していくべきいいのだろう」という話がでたため、「支援者の支援」を年間の研修テーマとしてあげ、当会理事の西章男氏に講義をしていただきました。立ち止まり、自分と向き合い、客観的に見つめることにより、少しずつ自分を好きになる。「人を元気にするために自分自身が元気でなくてはならない」ということを学びました。今は、ブロック研修会の目的は、ここにあるのではないか、と考えるようになりました。

私たち社会福祉士は、職場の中でも少数派で時にはたった一人で孤軍奮闘しているひともいらっしゃいます。目の前の支援が必要としている方に元気になってもらおうと頑張っているのですが、やり方がよくわからない…そのようなときには、研修で自分の専門とは違う話を聞くことで、自分の考え方には幅が出てきて、新しい視点を持ったり、「できているじゃないか」という自信につながるのではないかと思います。また、名刺交換をした方に、勇気を出して連絡を取ってみて「大丈夫ですよ、がんばって！」と言われると、明日への元気につながります。

今年度も西ブロック、北ブロックと合同で3回の研修会と名刺交換会を計画しております。是非多くの方のご参加をお待ちしております。もちろんブロック外の方も大歓迎です。それから、先輩方へのお願ひです。私たちは、皆様の経験談から勇気を貰うことができます。名刺交換会で飲みながら食べながら、色々なお話を聞かせてください。

人を支援するには、とてもエネルギーが必要です。豊富な視点を得るために知識を学んだり、人との出会いによってエネルギーを補給する、ブロック会がそのような場になればいいなと思います。今後ともよろしくお願ひいたします。

つぶやき

7年ぶりの引っ越しの為、片付けをしていると、とても懐かしい物に再会しました。時計です。7年前、社会人として初めてのお給料で購入した時計です。学生の頃から憧れていたブランドの時計をその時、背伸びして買ったのです。大事に使っていたものの、数年前に壊れてしまい、何軒も時計屋を回り修理をお願いしましたが直ることはありませんでした。そのまま机の中にしまいこんでおり、忘れていました。

久しぶりの再会にふつふつと当時の事が思い出されました。まだ社会福祉士にも社会人にもなったばかりでよく失敗をしていた自分。それを先輩社会福祉士にフォローしてもらっていた自分。それでも〇〇な職員になりたいと希望や情熱に溢れていた自分。7年経ち後輩もたくさんでき、今では私が先輩となりました。当時なりたかった自分に近づけているのかなとその頃の自分の気持ちと再会し、また新鮮な気持ちで一日一日を過ごしていけそうです。

〈広報委員 堤 美子〉